

## 術前休薬の必要な薬剤【女性ホルモン剤】 ver3.0

分類	一般名	商品名	採用 (2023年8月時点)	メーカー	休薬について	備考
卵巣ホルモン製剤	エストラジオール	エストラーナテープ0.09mg、0.18mg 0.36mg、0.72mg	外 (0.09mg、0.18mg) 内外 (0.72mg)	久光	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		ジュリナ錠0.5mg		バイエル	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照 ※ル・エストロジェル0.06%は産婦人科限定
		エストラジオール錠0.5mg「F」		富士製薬		
		ディピグル1mg	内外	持田		
		ル・エストロジェル0.06%	内外	富士製薬		
	エストラジオール吉草酸エステル	プロギノン・デポー筋注10mg	内	富士製薬	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【慎重投与】を参照
		ペラニンデポー筋注5mg、10mg		持田	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
	エストリオール	エストリール錠0.5mg、1mg、100γ	内外 (1mg)	持田	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		ホーリン錠1mg		あすか		
		エストリオール錠1mg「F」		富士製薬		
	エストリオール (腔錠)	エストリール腔錠0.5mg	内外	持田	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		ホーリンV腔用錠1mg		あすか	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
	エストラムステンリン酸エステルナトリウム水和物	エストラサイトカプセル156.7mg	内外	日本新薬	術前は血液凝固能が亢進するため患者のリスクに応じて休薬、術後は血液凝固能を検査して再開②	抗悪性腫瘍剤
エチニルエストラジオール	プロセキソール錠0.5mg	内外	あすか	患者の背景による血栓症リスクや原疾患の状態を考慮し、手術前4週間・術後2週間の休薬②	抗悪性腫瘍剤	
結合型エストロゲン	ブレマリン錠0.625mg	内外	ファイザー	術前4週間又は長期臥床状態の患者(治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合は投与可)①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照	
黄体ホルモン製剤	クロルマジノン酢酸エステル	ルトラル錠2mg	内外	富士製薬	休薬の必要性なし②	
	ジドロゲステロン	デュファストン錠5mg	内外	ヴィアトリス	休薬の必要性なし②	
	ヒドロキシプロゲステロンカプロン酸エステル	プロゲストンデポー筋注125mg		富士製薬	休薬の必要性なし②	
		プロゲデポー筋注125mg		持田	休薬の必要性なし、患者の状態を鑑みて判断②	
	プロゲステロン	ウトロゲスタン腔用カプセル200mg	内外	富士製薬	休薬の必要性なし②	産婦人科限定採用
		エフメノカプセル100mg	内外	富士製薬	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照、産婦人科限定採用
		プロゲホルモン筋注用10mg、25mg		持田	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		プロゲステロン筋注25mg「F」、50mg「F」		富士製薬	休薬の必要性なし②	
		ルティナス腔錠100mg	内外	フェリング	休薬の必要性ないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		ルテウム腔用坐剤400mg		あすか	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
		ワンクリノン腔用ゲル90mg		メルク	休薬の必要性なし②	
	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	ヒスロン錠H200	内外	協和キリン	術後1週間、術前は4週間休薬し、血液検査で血液凝固能を検査する②	抗悪性腫瘍剤、【禁忌】手術後1週間以内の患者(休薬については、添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照)
		メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠200mg「F」		富士製薬		
		プロベラ錠2.5mg	内外	ファイザー	休薬の必要性なし②	
		ヒスロン錠5		協和キリン	休薬の必要性はないが、術後では1週間を目安に再開②	
		メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠2.5mg、5mg		富士製薬 東和薬品	休薬の必要性なし②	
ノルエチステロン	ノアルテン錠5mg		富士製薬	休薬の必要性なし②		
緊急避妊薬	レボノルゲストレル	ノルレボ錠1.5mg		あすか	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	自費
		レボノルゲストレル錠1.5mg「F」	内外	富士製薬		自費
子宮内黄体ホルモン放出システム	レボノルゲストレル	ミレーナ52mg	内	バイエル	休薬の必要性なし②	正規採用(産婦人科のみ処方可能)。※避妊目的は自費子宮内に局所的に作用し、血液中へ移行する量は限られるため、周術期における血栓症リスクに対して休薬の必要性なし。すでに装着した状態で骨盤内の手術をする場合は注意

参考資料：①添付文書・IF、②メーカー回答、今日の治療薬

分類	一般名	商品名	採用 (2023年8月時点)	メーカー	休業について	備考		
卵巣ホルモン 黄体ホルモン 配合剤	エストラジオール 1mg レボノルゲステル 0.04mg	ウェールナラ配合錠		バイエル	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照		
	エチニルエストラジオール 0.05mg ノルゲステル 0.5mg	プラノパール配合錠	内外	あすか	血栓症のリスクに応じて休業②			
	エストラジオール 0.62mg 酢酸ノルエチステロン 2.70mg	メノエイドコンビパッチ	外	久光	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【慎重投与】を参照		
	エストラジオール安息香酸エステル 10mg ヒドロキシプロゲステロン カプロン酸エステル 125mg	ルテスデポー注	内	持田	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休業②			
	エチニルエストラジオール LD 0.035mg ULD 0.02mg ノルエチステロン 1mg	ルナベル配合錠LD、ULD フリウェル配合錠LD、ULD	外 (LD)、内外 (ULD)	日本新薬 多数 (採用は持田)	手術前4週間から術後2週間まで休業、 産後4週間まで及び長期間安静状態についても休業①	マーベロン28：産婦人科のみ処方可能 アンジュ、トリキュラー、ラベルフィーユ、シンフェーズ、マーベロン、ファボワールは自費 添付文書： 【禁忌】手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内及び長期間安静状態の患者（血液凝固能が亢進され、心血管系の副作用の危険性が高くなる可能性がある。）		
	エチニルエストラジオール0.03mg、0.04mg レボノルゲステル0.05mg、0.075mg、0.125mg	アンジュ21錠、28錠 トリキュラー錠21、錠28 ラベルフィーユ21錠、28錠		あすか バイエル 富士製薬				
	エチニルエストラジオール 0.02mg レボノルゲステル 0.09mg	ジェミーナ配合錠	内外 (錠内は患者限定)	ノーベル				
	エチニルエストラジオール ノルエチステロン	シンフェーズT28錠	外	科研				
	エチニルエストラジオール 0.03mg デソグステル 0.15mg	マーベロン21、28 ファボワール錠21、28	外 (28)	オルガノン 富士製薬				
	エチニルエストラジオール 0.02mg ドロスピレノン 3mg	ヤーズ配合錠、ヤーズフレックス配合錠 ドロエチ配合錠「あすか」	外 (フレックス)	バイエル あすか製薬=武田				
性腺刺激ホルモン	ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン	HMG注射用75単位、150単位	内 (75単位)	富士、あすか (採用は富士)			休業の必要性なし②	添付文書記載（重大な副作用）に注意 ※卵巣過剰刺激症候群が現れた場合、過剰なエストロゲン分泌により血液濃縮や血液凝固能の亢進が起き、血栓症等を引き起こす
		HMG注射用75IU、150IU「フェリング」	内外 (150IU)	フェリング				
		フォリルモン注75、150 uFSH注用75単位、150単位「あすか」	内 (150)	富士製薬 あすか				
	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (注射用HCG)	ゴナトロピン注用5000単位 筋注用1000、3000単位					あすか	休業の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休業②
		HCGモチダ筋注用3千、注射用5千、1万単位			持田			
		注射用HCG 3,000単位「F」、5,000単位「F」、 10,000単位「F」	内外 (5千単位)	富士製薬				
ホリトロピン アルファ	ゴナールエフ皮下注ペン150、300、450、900 ゴナールエフ皮下注用75、150	内外 (300、900)		メルク	休業の必要性なし②			
ホリトロピン デルタ	レコベル皮下注ペン12μg、36μg、72μg	内外 (36、72)		フェリング	休業の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休業②			
コリオゴナドトロピンアルファ	オビドレル皮下注シリンジ250μg	内外		メルク	休業の必要性なし②			
Gn-RH アゴニスト製剤	ゴセレリン酢酸塩	ゾラデックス1.8mgデポ			キッセイ	休業の必要性なし②	凝血系への影響等については報告されておらず、手術で問題があったという報告もなし。(2021年1月メーカー確認)	
		ゾラデックス3.6mgデポ、LA10.8mgデポ	内		アストラゼネカ	休業は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②		
	酢酸ナファレリン	ナザニール点鼻液0.2%	内外		ファイザー	休業の必要性なし②		
		ナファレリン点鼻液0.2%「F」			富士製薬			
	プセレリン酢酸塩	スプレキュア点鼻液0.15%	内外		持田	休業の必要性なし②	基礎試験では血液凝固・線溶系への影響はほとんどなし	
		プセレリン点鼻液0.15%			富士製薬、ILS			
リュープロレリン酢酸塩	リュープリン1.88mg、3.75mg	内 (1.88mg)		武田	休業の必要性なし②	注射用1.88mg：小児科のみ処方可能		
	リュープリンSR11.25mg、PRO22.5mg	内				PRO22.5mg：泌尿器科・乳腺センターのみ処方可能		
	リュープロレリン酢酸塩注射用キット1.88mg、3.75mg	内				あすか、ニプロ (採用はニプロ)		
Gn-RH アンタゴニスト 製剤	ガニレリクス酢酸塩	ガニレスト皮下注0.25mgシリンジ	内外		オルガノン	該当資料無し		
	セトロレリクス酢酸塩	セトロタイド注射用0.25mg			メルク	休業の必要性なし②		
	レルゴリクス	レルミナ錠40mg	内外		あすか	休業は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②		
排卵誘発薬	クロミフェンクエン酸塩	クロミッド錠50mg	内外		富士製薬	休業の必要性なし②		
	シクロフェニル	セキソピット錠100mg			あすか	休業は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②		
子宮内膜などの 治療薬	ジエノゲスト	ディナゲスト錠0.5mg、1mg、OD1mg ジエノゲスト錠0.5mg、1mg、OD1mg	内外 (0.5mg) 内外 (1mg)		持田 多数 (採用は持田)	休業の必要性なし②	血液凝固は亢進しないとの文献報告あり	
	ダナゾール	ボンゾール錠100mg、200mg	内外 (100mg)		田辺三菱	休業の必要性なし②		
女性 男性ホルモン 配合剤	テストステロンエンタートエステル 90.2mg エストラジオール吉草酸エステル 4mg	ダイホルモン・デポー注			持田	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照	
		プリモジアン・デポー筋注				富士製薬	添付文書の【慎重投与】を参照	

参考資料：①添付文書・IF、②メーカー回答、今日の治療薬